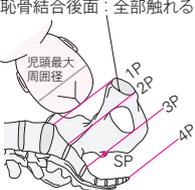
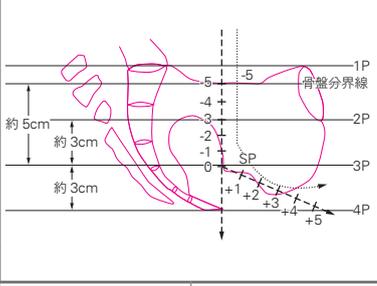
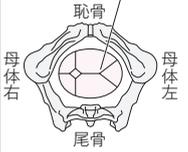
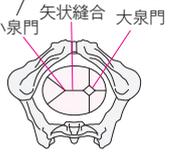
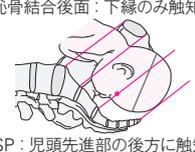


『助産師基礎教育テキスト：第5巻：2020年版』訂正ご案内

本書 p.72-73 の本文および p.75 の表 3-10 につきまして、下記の通り訂正させていただきます。

- ◇ p.72 下から2行目：「通過した状態」→「通過し児頭の過半部分が骨産道内に進入した状態」
- ◇ p.72 下から1行目：「station - 1」→「station ± 0」
- ◇ p.73 上から2行目：「station - 1」→「station ± 0」

表3-10 | 前方後頭位の正常分娩における下降度・回旋状態の内診所見の対応関係(目安)

恥骨結合後面坐骨棘の触知	児頭先進部下降度 (cm)	ホッジ骨盤平行平面区分	児頭の最大周囲径位置	児頭の状態	矢状縫合・小泉門の位置	
					第1前方後頭位	第2前方後頭位
 <p>恥骨結合後面：全部触れる</p>	-6	第1平行平面 恥骨結合上縁 (1P)	骨盤入口の上	浮動		
	-5	分界線平行平面				
	-4					
 <p>恥骨結合後面：3分の2触知</p> <p>SP：児の前方に触知</p>	-3	第2平行平面 恥骨結合下縁 (2P)			骨盤入口部	固定
	-2					
	-1					
 <p>恥骨結合後面：2分の1触知</p> <p>SP：児頭先進部と同じ高さに触知</p>	±0	第3平行平面 坐骨棘間線 (3P)	骨盤潤部	嵌入高在		
	+1					
	+2					
 <p>恥骨結合後面：下縁のみ触知</p> <p>SP：児頭先進部の後方に触知</p>	+3	第4平行平面 尾部先端 (4P)	骨盤峽部	低在		
	+4				骨盤出口部	発露
	+5					

(坂元正一, 水野正彦, 武谷雄二監修: プリンシプル産科婦人科学2, 第2版. メジカルビュー社: 1998. p.276 / 武谷雄二, 上妻志郎, 藤井知行, 他監修: 同第3版: 2014. p.263 / 日本産科婦人科学会, 日本産婦人科医学会編・監修: 産婦人科診療ガイドライン: 産科編2020. 日本産科婦人科学会: 2020 / 医療情報科学研究所編: 病気がみえる vol. 10: 産科. 第4版. メディックメディア: 2018をもとに作成)